

教育改革事務部門管理者会議の開催結果

1. 開催日時：平成28年10月31日(月) 13:00～16:30
2. 開催場所：アルカディア市ヶ谷（東京、私学会館） 5階 大雪
3. 参加者：88名（58大学、1短期大学） 前年度：77名

4. 開催趣旨

各大学は、建学の精神に基づき、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針に沿って教育改革に努めてきているが、三つの方針と実際の教育活動との整合性、関係性が必ずしも一貫していないことが指摘されている。重要なことは質保証の検証方針を大学として確立し、質的転換に向けた取り組みを可視化して社会に公表していく説明責任が要請されている。

そこで本会議では、教育活動の実態を客観的・体系的に把握し、大学が抱える問題を科学的に分析し、その解決策を提言する仕組みとしてのIR(インスティテューショナル・リサーチ)について、導入の重要性と体制、実際の活用内容及び課題について認識を共有することにした。

5. 実施結果

上記の日程で開催し、参加者が去年より11名増加した。

テーマは『教育の質保証を目指したIRの導入と課題』として、IR導入の重要性と体制、実際の活用状況及び課題を中心に認識の共有を図った。

プログラムは、3つの講演として「質保証の手段としてのIRとは何か、その役割と課題を考える」（筑波大学：金子元久氏、「大学価値の向上を目指したIRの試みとICTシステムの構築」（京都光華女子大学：水野豊氏、「教育改善のPDCAサイクルを目指すためのIRの取り組み」（芝浦工業大学：井上雅裕氏）を行い、事務局から「学修ポートフォリオ」、「教育への情報化投資の実態」、「情報関係の補助金対策」、「情報セキュリティ対策」についての情報提供を行った。

アンケートによると来年度希望するテーマとしては、IR導入と具体的な効果の事例、教育質保証のICT活用の事例、アセスメント及び卒業生評価の事例、アクティブ・ラーニングによる学修方法の改革、情報セキュリティの重要性、情報漏洩対策や漏洩後の対応事例、また、私情協の活動に対する希望としては、施設・設備関係補助金要望の強化、研修会の地方開催などがあった。